

ファインダー
2015こうち

「政策型」で有権者の関心を

早大マニフェスト研

統一選向けプロジェクト

前まで行政職員は「横浜市は全國、世界中から一番安い条例のものを引っ張ってきて、仕事をさせる。市民の税金は1円たりとも無駄にしない」と言っていた。

安からう悪からうもあるんじゃないかと疑問があった。条例を作つたら役所の態度はコロコロと変わった。「市の仕事は市の業者にしてもらい、市で雇用を生み出し、税金を払つてもらう。これが横浜市の新しい税金の使い方だ」

議員提案条例 4年で13本 「普政競争」始まる

任期4年には計13本の議員提案条例を作った。公明党、民主党からも議員提案条例が出てきた。横浜市議会では、「善政競争」が始まっている。

各条例で制定プロジェクトチームを党内でつくった。皆、ほぼ族議員のよう。当局と折衝を重ね、各議員の地元から話を持ち寄り、団体と意見交換し、パブリックコメントをやり、先進事例を研究した。議会が変わり、議員力が高まってきたのも事実ではなかいか。

次は、制定した条例が市民にどう良い影響を与えるかを可視化する。条例に基づく政策が立案、実行される。検証し、必要があれば条例を改正する。これからやらなければならぬマニアックエストサイクルだ。

り、選挙で当選しないといけない。理想は政策を住民に示し、政策を選択してもらって勝つこと。政策を書いたチラシを配る行動でいいかという問題意識がある。読まれないですよ、ポストに突っ込んで。毎日ピザや不動産のチラシも入る。読んでもらえるチラシにする。読んでもらえるにしなければ。

もう一つは住民あつてのこと。政策を出しても、地域のお願いを聞いてと言われる。選挙は政策を持つ出たが、当選したのはいつも握手したから、では政策型とは違う。市民に政策型になつてもらわないと。昨年4月の市長選に狙いを定め、活動は前年の正月に始めた。選挙期間の1週間では無理。時間をかけない

市民あっての政策本位 「届ける努力」必要

20万世帯に自分と反対で配った。チラシは十数回出した。32ヶカラーのマニフェストも2万部発行。友達のレストランや幼稚園にも置いてもらつた。

市長選の相手は現職で自民、民主、公明が推薦。市議3人を除く全員が応援した。結果は5万9千票。向こうは5万5千票。5万人取りこぼしたと思った。どう考へても僕の政策の方がいい。政策選挙は簡単ではない。政策を作るだけではなく、どう届けるか。届けた先が見てくれるか。西宮は市議選の投票率30%台の街だが、本気でやれば住民を変えることができる。

マニフェストとは何か。大きな土地を買って市立病院を移転する前市長の政策

いという公約がぱらぱらにされた。
でも、「元代表制はそつういうもの。議論して一番いい形を探る。マニラエストは施策事業にこだわっているわけではない。西宮の医療レベルを上げたいだけだ。
自分は毎日成長しているつもり。4年後に市民がマニラエストを見て、全部うそだと思われれば公約違反。でも、今はこうなつていると提案できれば、誰も裏切られたとは思わない。新聞は「公約撤回」と書いたが、撤回したつもりはない。発展させたんです。民意の代表である議会と議論した上で。僕はマニラエストとはそう付き合いたい。



黑川勝　日本文部省圖書監修官

条例を作つたら、そこから先は役所の職員は優秀だ。補助金や助成金を交付する外郭団体の仕事も、市の業者にやらせなさいと縛りを付けた。議会が条例制定をすることと行政が動きだした実感だつた。

A black and white photograph of a man with dark hair, wearing a pinstripe suit jacket, a light-colored shirt, and a striped tie. He is looking slightly to his left with a neutral expression. The background is dark and out of focus.

作井の町から西高尾へ

卷之三

北川正恭・早大マニフェスト研究所長 間われる自治力

北川正恭・早大マニフェスト研究所長（元三重県知事）が3日、日本記者クラブで行ったプロジェクトの説明会は次の通り。

マニフェストを12年前に提唱し、それなりに定着してきだが、民主党がマニフェストで政権を奪取し、それがうまく機能しないということで政権を離脱した。現在は少し停滞気味だ。

当時から二つの方法を提起した。一つは政党が書く国政、議院内閣制でのパーティーマニフェスト。もう一つは地方の首長や、執行権がない地方議会も書ける前提でローカルマニフェストの普及発展に努めてきた。

今年は統一地方選があり、地方創生元年。地域の自治力が厳しく問われる。マニフェスト選挙はローカルの方が地域限定版の政策で分かりやすく、国政より親和性が高い。

昨年の衆院選で、与党は首相が解散と言つてから慌ててマニフェストを作り、野党に至つては政策が間に合わず、対立軸が出せずに惨敗した。政党の堕落、怠慢だったことは間違いない。地方で分かりやすいマニフェスト選挙を実行し、地方から国を変えるプロジェクトに育てたい。

有権者も「お任せ政治」「白紙委任」でやつていれば、街は消滅することが現実に見えてきている。恩顧主義や利益誘導でなく政策の優劣順位で決める選挙を真直ぐに追求し、大きな輪になればと期待している。

率を上げる狙い。

北川正恭・早大マニラエスト研究所長(元)

統一様式で公約比較

首長や地方議員、行政職員、学生らが「新しい選挙」への取り組みを報告した（4日、東京・新宿区の早大キャンパス）

選挙後も検証可能に

率を上げる狙い。
「マニフェストスイッチプロジェクト」と題し、マニラエストを「ビジョンや政策を具体的にした事後検証可能な選挙公約」などと定義。検証や比較を可能にするため全国統一のフォーマットをつくり、候補者から寄せられたマニラエストをネット上で公開する。
参加する候補者は、立候補の理由や解決したい課題、地域の将来像など共通の項目ごとに回答。具体的な政策の優先順位も分かるようになる。また、選挙後も監視してPDI-CIA（計画、実行、検証、改善）を回し、選挙限りの約束に終わらせない狙いがある。
活用法として、候補者間でのマニラエストの比較▽有権者が自分の考えに近い候補者が分かる「ポートマッチ」▽選挙後の政治家自身や第三者による実現状況の評価▽などを想定している。統一選では1千の選挙での活用を目指すという。

北川正恭・早大マニフェスト研究所長 **問われる自治力**

北川正恭・早大マニフェスト研究所長（元三重県知事）が3日、日本記者クラブで行ったプロジェクトの説明要旨は次の通り。

マニフェストを12年前に提唱し、それなりに定着してきたが、民主党がマニフェストで政権を奪取し、それがうまく機能しないということで政権を離脱した。現在は少し停滞気味だ。

当時から二つの方法を提起した。一つは政党が書く国政、議院内閣制でのパーティーマニフェスト。もう一つは地方の首長や、執行権がない地方議会も書ける前提でローカルマニフェストの普及発展に努めてきた。

今年は統一地方選があり、地方創生元年。地域の自治力が厳しく問われる。マニフェスト選挙はローカルの方が地域限定版の政策で分かりやすく、国政より親和性が高い。

昨年の衆院選で、与党は首相が解散と言つてから慌ててマニフェストを作り、野党に至つては政策が間に合わず、対立軸が出せずに惨敗した。政党の堕落、怠慢だったことは間違いない。地方で分かりやすいマニフェスト選挙を実行し、地方から国を変えるプロジェクトに育てたい。

有権者も「任せ政治」「白紙委任」でやつていれば、街は消滅することが現実に見えてきている。恩顧主義や利益誘導でなく政策の優劣順位で決める選挙を真面目に追求しきな輪になればと期待している。

◆「ファインダー2015こうち」は隔週掲載です。「数字で見る県勢」「自治体検索」休みます。